

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

原北中学校 学校通信



令和 2年11月 2日 第12号

福岡市早良区小田部7-11-1

電話 092-851-3344

発行者 校長 福崎 浩信



オンライン授業の試行について

福岡市教育委員会は、児童生徒の個性に合わせた教育の推進と、非常時における学力保障のため、国の計画を前倒しし、12月活用を目標に、全ての学校に「1人1台端末」を整備しています。今回、その環境確認と新型コロナウイルス感染症拡大の第2波、第3波で休校になるなどの非常時を想定して、全ての学校でオンライン授業が試行されます。

1 日程 12月12日(土)の午前と2月20日(土)の午前

2 方法 自宅でオンライン授業を受けるか、学校でオンライン授業を受けるか

上記1, 2を受けて中学校では、12月12日までの事前準備として、端末及び環境整備完了後、速やかに生徒への端末操作方法等の指導を開始します。11月末までに、生徒の参加方法の把握をするために「参加確認プリント」を配付します。また、12月4日までに、自宅でオンライン授業を受ける生徒への「タブレット端末の貸出に係る留意事項(貸出確認書)」と端末の家庭のWi-Fiへの接続方法「ChromeBookを家庭のWi-Fiにつなぐ手順」をお知らせ(配付)します。

今後、以下のことを想定した環境を構築していきます。ご理解・ご協力をお願いします。

一斉休校時は、①ビデオ会議サービスを活用した双方向オンライン授業、

②福岡TSUNAGARUクラウド学習動画の活用、

③福岡プラットフォームを活用し、家庭との連絡、生徒への課題の配信、回収を行う、

④ネット環境がない生徒については学校に登校し、教室での学習

分散登校時は、①自宅学習の生徒は、福岡TSUNAGARUクラウドやAIドリル等を使用し学習を行う。

②自宅にネット環境がない生徒は学校に登校し、図書室や特別教室を使用し、AIドリル等で学習を行う。

コロナ感染による学級閉鎖時は、

①ビデオ会議サービスを活用した双方向オンライン授業(復習を中心とした内容)を行う。

②ネット環境がない生徒に対しては、教育委員会よりLTE端末の貸し出しが行われる。



道は開ける(成せばなる) 「ルビコン川を渡る・・・ユリウス・カエサル」

ルビコン川を渡るとは、後戻りのきかない道へと歩み出す、その決断を下すことを意味し、ある重大な決断・行動をすることのたとえに使うことがあります。「背水の陣を敷く」などともいいます。

ルビコン川を渡ること自体は、大した障害ではありません。アペニン山脈に水源を発して東に流れ下るイタリアの小さな川で、リミニとチェゼーナの間を通過してアドリア海に注ぎます。

渡るのは簡単で、それは紀元前49年1月10日も同じでした。そのとき、ユリウス・カエサル（古代ローマの将軍、執政官、独裁官、ルビコン川を渡り、ローマ帝国の成立に至る一連の流れを生み出した。）は、配下の一個軍団を従えてこの川の北岸に立ち、次の一手を決めあぐねているように見えました。

そばに橋が架かっていました。カエサルが迫られていた決断は、どうやって対岸に渡るかということではありませんでした。



彼を立ち止まらせ、思案に暮れさせていたのは、この川が象徴するものでした。

ルビコン川は、当時カエサルが統治を任されていたローマの属州ガリア・キサルピナ（アルプスのこちら側のガリアの意）と、ローマおよびその周辺の直轄領から成るイタリア本土とを隔てる境界線でした。将軍が軍を率いてイタリア本土に入ることは、ローマの法律で明確に禁じられていたのです。

その禁を、今まさにカエサルは破ろうとしているのであり、彼自身、それがどういう結果を招くか重々承知していました。

ルビコン川を渡るとは、カエサル本人はもちろん、彼につき従う者も死罪に問われることを意味していました。もし軍団を率いて川を渡るなら、かつての盟友で今や不倶戴天（ふぐたいてん）の敵となったポンペイウスが指揮を執る軍勢を打ち破ってローマを掌握するしかなかったのです。それができなければ、死刑は免れません。

自らの決断の重さにしばらく思いを巡らしてから、カエサルはルビコン川を渡りました。ローマ内戦の火蓋が切って落とされたのでした。重大な決断・行動をすることのたとえから学ぶことは大きなものがあります。

